

COLUMN

鎌倉の猫事情
第九十六話

昔ばあちゃんが、猫は死ぬとき、からだがべとつくって言っていた。グーニーの体はまだその時さらさらしてきれいだった。けど、グーニーは、死んだ。前の晩も、テーブルの上に乗って、アジの干物の半分の半分を食べた。けど、グーニーは死んだ。その日のお昼にもグーニーは、横たわった体に反動をつけて起き上がった。そしてトイレに行った。そうやって3度も。でも、やっぱりその晩グーニーは、死んだ。もうだめだと思って、グーニーと仲の良かったスタッフたちに、最後のお別れをするように言った。すると、皆、代わる代わるグーニーに会いに来た。どうしても会えないと、言った子もいた。夜お店が閉まる時も、何人かが、会いに来た。グーニーは、お店が閉まる時は必ず階段のところにいて、皆が帰るのを見送ったからだ。皆、横たわったグーニーに、お別れを言った。皆が帰ったあと、グーニーのことを大声で呼んだ。すると、もう何時間も意識の無かったグーニーがはっきりと目を覚ました。そして、私と、マスターに、それぞれ目で挨拶をしたようだった。そして、もう一度眠った。そして一時間くらいすると呼吸が大きくなった気がした。少し元気が出たのかと思い、その体を抱き上げると、二度大きく息をした。不安に思っ、その小さな胸に手をあてると、もう鼓動がなくなっていた。どんなに捜しても鼓動は見つからなかった。グーニーが死んだ！そうわかったとたん、腰がぬけた。びっくりして腰がぬけた。胸がドキドキして、どうしようもなかった。酔っ払って倒れていたマスターを起こして、グーニーが死んだ、と言った。マスターはその晩一晩中グーニーの横で酒を飲んだ。私は黙ってグーニーの横にいた。翌朝、葬儀屋さんに電話した。2時に火葬できますと言われた。私はその間ずっとグーニーの横にいた。その日も、スタッフたちがグーニーに別れを言いに来た。その日は雨だった。葬儀屋さんが迎えにくると、マスターはグーニーの亡骸を抱いて家の周りを歩き廻った。「グーニー！もう、これが最後だぞ～」と叫んでいた。とても酔っ払ってうまく歩けなかった。

その後、火葬した。

そして、
グーニーは、死んだ。
11歳だった。
2010年4月21日
午後11時20分



to be continued



先月号ミルクホールタイムスの、グーニー危篤の報に大変多くの方からご心配とお悔やみの連絡を頂きました。私事で、皆様にこのようなご厚情を頂きまことに感謝しております。本当に寂しくはなりましたが、これからは「猫事情」では、鎌倉の裏路地の物語を語りついで行こうと思います。

ミルクホールタイムス総集編 「鎌倉ミルクホールタイムス」

No.001 No.100 ¥1500
ミルクホールタイムスを創刊号より、
100号まで掲載いたしました。
鎌倉の猫事情を第一話より第一部の

終わりまで。私達と、グーニーとの初めての出会いから、グーニーとスイービーの運命的な出会い、出産、グーニー一家と宿敵との熾烈な戦いの顛末など、懐かしいエピソードでいっぱいです。是非読んでみて下さい。



Café good bye! Milk Hall

No.8 鎌倉の今昔と、ミルクホール

裏面に掲載しています鎌倉タイムスにあるように、鎌倉の街は関東大震災によって大きく破壊され、そして当時鎌倉駅前にあった料亭「いそみ」を中心に復興したということです。今で言う駅前再開発です。ミルクホールは先々代から飲食店やサービス業を営む家系でした。栄華を極めた「いそみ旅館」の話は、今でも親戚達の語り草になっています。一代の傑物と言われた祖父喜代松が亡くなってからは、時代もあって衰退の一途を辿ったようです。商売も閉め、代々続いた議員職などにつく人もなく、現在唯一飲食業を営むのはミルクホールだけです。そんなこんな鎌倉の昔話を語りつぐ人も一人二人とこの世を去り、街も様変わりして、鎌倉の今と昔はどんどん遠ざかる一方です。どの街にも、どの商売にも始まりがあるように、鎌倉でも明治の頃から色々な家が商売を始めました。鎌倉に横須賀線が通り、東京のお金持ちが鎌倉に別荘を持つようになり、街の景気が良くなったことで多くの店が出来る始まりとなったのです。今でも鎌倉駅周辺で、昔からの家業を続けている店は少なくありません。駅前の喫茶店「イワタ」、ミルクホールよりずっと古くからあり、最近ではホットケーキが評判を呼んで大変流行っています。それにイワタの横の路地には、「納言」や「BARとのやま」など、昔からのお店がそのままあります。名物バーテンダーマイクさんの、BAR「マイク」、島森書店、永六輔が好んで通ったという小町通の「くるみ」、地元のラーメン通に絶対の信頼がある「鎌倉赤坂飯店」、寿司の「大繁」などなど新時代の荒波の中で頑張っている店が、鎌倉の今と昔を繋ぐ糸となって街を支えているのです。





LIVE



good bye !

ミルクホール 閉店記念ライブ

■ 満月の夜

琵琶と尺八のタベ

6/25 Fri.

日本古来の侘しい音色と
JAZZの魂が
ミルクホールで出会い
ました。

満月の夜の幻想に

目を閉じ、

耳を傾けて

お聴きください・・・

19:00~

琵琶・馬場鶴生

語り・パーカッション他

尺八・榎本秀水

フルート・テナーサックス・唄

ミルクホールの最後の満月の夜に、
ミルクホールとの別れを惜しんで、演奏します。

さよなら ミルクホール

2010年 7月4日 6:00 PM

ミルクホールより2年早く、「フルハウス」としてオープンしたアンティークショップを
一足先に、2010年5月16日午後6時、閉店いたしました。37年間の営業でした。

ミルクホールは、7月4日午後6時に閉店致します。4日の閉店後はミルクホールに
由縁のある方々にお集まり頂き、ミルクホールにお別れして頂く時間となります。

7月5日よりミルクホールは一旦なくなり、12月初めの再開を目指します。私達は、
1972年に還って、37年前にそうしたように、柱を建て壁を塗り、一度外した窓やドア、
カウンターを組み上げて、ミルクホールを再現致します。そしてミルクホールをこの
先、子や孫の代まで、50年、100年と繋いで行きたいと願って止みません。いつま
でも変わらずここにある事。それが、ミルクホールより、次世代への伝言です。

HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 No.46

ミルクホールのルーツ No.31

5月16日にアンティークショップを閉店して以来、長年の仕事と生活のもろもろの後片付
けに追われています。一々思い入れがあるわけですが、こういう時は容赦なく「処分」しな
くてはならないのが、世の常です。スタッフ総動員してフルハウス、裏の仕事場、住居部分
とごったになった埋もれた在庫などを大掃除です。その混乱の中で見つけたのが、右紙
面に掲載しています、昭和57年6月25日に発行された「鎌倉タイムス」です。テーマは、
—鎌倉現代史をさぐる—復刊一千号記念座談会(6)とあります。震災後の鎌倉駅の復興が、
料亭「いそみ」を中心に行われた当時のことが記されています。そしてその下に、「道楽三
味から事業家に・・・一代の傑物磯見喜代松翁の略伝」として、旅館いそみの成り立ちと、
二男満氏の描いた喜代松像も掲載してあります。二男満氏はミルクホールのマスター
の父であり、喜代松翁は祖父です。明治の時代に、旅館いそみが始まり、大正の震災と
昭和の大戦、栄華と衰亡を経て、そして、今のミルクホールに至る物語です。 次号へ



6/19 Sat.

19:30~

by HALF MOON

琢磨 仁
琢磨 啓子

ミルクホールタイムス総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」 ¥1500



ミルクホールタイムス創刊号



鎌倉の現代史をさぐる

復刊一千号
記念座談会
(6)

鎌倉駅前で大移動 震災後

料亭「いそみ」を中心に

別荘族の引きあけ
「大震災後、鎌倉大震災は、鎌倉市に大きな影響を与えた。その中でも、別荘族の引きあけは、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。震災後、別荘族は、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。」

松岡氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。



震災被害時の鎌倉(空中写真下図参照、有隣堂版「神奈川写真誌」より)



出席者
松岡 正二氏
追 政男氏
蔵並 定男氏
木村彦三郎氏
金手 晋氏
武田 久志氏
司会 本誌 馬場 喬

木村氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。



二男故清氏が描いた當代松翁

道楽三昧から事業家に

一代の傑物 磯見喜代松翁の略伝

松岡氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

金手氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

武田氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

松岡氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

金手氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

別荘側代表で町議に

元総理の石橋湛山さん

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

石橋さんの回顧談

磯見喜代松翁 一代の傑物。道楽三昧から事業家に。磯見喜代松翁の略伝。磯見喜代松翁は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

松岡氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

金手氏 震災後、鎌倉市内から、鎌倉市外へ、大規模な移動を行った。この移動は、鎌倉の歴史を語る上で重要なポイントである。

HOTEL KŌYŌ
大小宴会
結式式場
ホテル
電話 大 0467-22-1179

